

◀音頭社長を中心に握手



上阿井の東洋製鉄出雲仁多工場が工場を増設を行うことになり、立地計画認定書の交付と覚書の調印式が、県庁で十二月十九日、東洋製鉄の音頭宏紀代表取締役社長、溝口善兵衛島根県知事と井上町長、各関係者が出席して行われました。

同社は、平成三年に銑鉄・鋳物製造工場として旧仁多町に進出。平成七年に第二工場、平成十九年に第三工場が増設されました。建設機械用のパランスウエイト（機械の転倒

や傾きを防止する鋳物製の重り）を生産する国内屈指メーカーとして、主要建機メーカーに供給しています。

この度、新興国や資源開発国向け建機の大規模に対応するため、工場を増設することになりました。今回の計画では、第二工場の隣地に、鉄骨平屋建ての工場（約千四百平方メートル）を建設し、機械三台を増設します。投資額は二億七千万円、操業開始後三年で十二人の新規雇用を予定し、県、町からは助成金や税制優遇などの支援が行われます。

式では、音頭社長から「国内での競争力を高める上で行政の後押しは何事にも替えがたい安心。奥出雲町から良い鋳物製品を発信できることに役に立ちたい」と抱負を語られました。

今回の工場増設と新規雇用計画により、地域経済の活性化が期待されます。

椎茸生産のステップアップへ

奥出雲椎茸生産組合二十五周年記念式典

「新品種「雲太・1号」のお披露目も」

町内の菌床シイタケの生産者でつくる奥出雲椎茸生産組合（桃井太郎組合長、二十一戸）が昭和六十一年の設立から二十五周年を迎え、記念式典が十二月十九日、市場関係者や行政関係者など約百人が出席しカルチャープラザ仁多で行われました。

また、記念事業として、新品種の発表が行われました。式典では、桃井組合長から「おいしだけでなく、安全安心な椎茸を届けるため努力を続けている。また、新品種により生産から販売まで一貫した生産体制が確立し、組合として新たなスタートになっ



▲挨拶する桃井組合長

たと確信している」とあいさつされ、来賓からは組合の躍進に期待し、祝辞が送られました。

また、組合の発展に功績のあった、岩田一郎前町長と恩田福男前組合長に感謝状が贈られました。

記念事業

新品種「雲太・1号」発表会



▲新品種「雲太・1号」

記念事業として、菌床栽培用シイタケの新品種「雲太・1号」の発表会が開かれました。

「雲太・1号」は、（有）奥出



▲試食会でも好評

雲椎茸が平成十八年から独自の菌種開発に着手。三月には農林水産省に品種登録を出願しました。

名称の「雲太」は、平安時代の建築物の大きさを歌った数え歌「雲太（出雲大社）、和二（大和国東大寺大仏殿）、京三（京都大極殿八省）」に因んでいて、日本一の意味があります。

かさの大きさ八〇九センチ、重さは三十〇五グラムほどになり、肉厚で弾力のある食感と豊かな風味が特徴です。

新品種栽培は、今春から本格的に導入され、生シイタケとして製品出荷が予定されています。一層のブランド力向上が期待されます。

◀重森千青さん（右）による講演の様子



より良い奥出雲の景観づくりとまちづくりについて考えようと、十二月二十二日、景観まちづくり学習塾が、玉峰山荘隣りの交流施設「蔵」で開催されました。

九月に続き開催されたこの学習塾では、二人の専門家による講演会のほか、参加者によるグループ討論が行われました。

前半は、（有）重森庭園設計研究室代表の重森千青さん（庭園設計デザイン）、（株）モブ代表取締役で和光大学准教授の伊藤隆治さん（環境芸術・

デザイン）の二人を講師に招いた、講演が行われました。

重森さんは、専門とする庭園設計の観点から、奥出雲の自然・風景を生かした借景の可能性について、そして伊藤さんは、地域性を生かしたイベントによる、地域への誇りを育み伝えることの重要性について、それぞれ講演しました。参加者は、メモを取りながら熱心に聴き入っていました。

また、後半は、参加者全員が、景観について考えること、感じることにグループ討論を行いました。討論では「住民が地域の景観に気づくことが必要」「自然や景観を感じる憩いの場があると良い」「子どもたちと一緒に祭りが必要など、自由に意見を交わしていました。参加者にとってこの学習塾は、講演で知識を深め、討論で意見を交わすことで、景観づくりやまちづくりについて再認識する良い機会となりました。

第十六回中四国中学生選抜剣道大会

▼熱戦の様子



第十六回中四国中学生選抜剣道大会が十二月十一日、町民体育館で開催されました。大会には、中四国各県からの選抜校と大分県からの招待校を加えた、全四十八チームが参加しました。

開会式では、松崎康汰さん（横田中二年）と福田愛美さん（仁多中二年）が「各県の剣友との『交剣知愛』を益々深め、正々堂々と最後まで諦めず戦い続けることを誓いました。

古会では、基本動作から掛り稽古など、熱心に取り組み汗を流しました。

年越しの際には、参加者全員が整列。黙想をしながら、気持ち新たに新年を迎えました。

また、今回は二十回目の記念事業として、日本剣道形（打太刀、仕太刀）が披露され、気迫あふれる演武に、参加者は見入っていました。新年を迎える凜とした空気の中で行われた稽古会で、さ

剣道越年稽古二十周年で気持ち新たに

毎年恒例の剣道越年稽古会が、大晦日から元日にかけ、仁多郡剣道連盟が主催し、仁多中学校武道場で行われました。

この稽古会は二十回目を迎え、今回は、町内の小・中学校、高校の剣道部員や学生、社会人など約七十人が参加。また、稽古会開始当時の仁多中剣道部顧問の下諸純孝さんや当時の保護者も出席しました。午後十一時から始まった稽



▲迫力ある剣道形に息をのむ参加者

す」と力強く宣誓しました。会場には、気合の入った声と激しく交わる竹刀の音が響き、選手たちは、日頃の稽古の成果を競い合いました。また、大会前日には錬成会が行われ、大会参加選手をはじめ、地元中学生も多数参加しました。

二日間を通して、選手たちは技術の向上はもとより、互いに交流を深めていました。結果は、女子の部で横田中学校が第三位に入賞し健闘しました。

らなる精進を誓いました。